

## 蘭州近況その53 (2017年3月)



初春の榆中

榆中の風景

### 清明の時節

清明の水菜菔ごたへよかりけり 鈴木真砂女

いよいよ来週から清明節の連休です。4月2日から4日まで3連休ですが、3日(月)が振替休日で、4月1日(土)が振替日になります。月曜日は私も2年生の作文の授業があるので、1日に授業を行うはめになりました。

清明が来ると、長い冬が終わってやっと春が来たと何となくうれしくなります。中国では清明というと雨だそうです、これは杜牧の「清明」の一節、「清明の時節、雨紛々」から来ているのでしょうか。

清明は墓参りの日でもあります。久しぶりに先祖や家族の墓へ、家族で出かけ、墓を掃除して、お供えや造花を供えます。中国では墓地とお寺は別のものですので、線香の煙がたなびくことはありませんが、所々で紙銭を燃やした煙が漂います。清明には蘭州や近隣の学生は家に帰りますが、遠方の学生は帰れません。多くの学生は蘭州市街へショッピングに出かけたり、図書館にこもって授業の復習に余念がありません。

2月末に赴任してから一か月になりました。その間、積雪が3回あり、そのうちの一つは先週降りました。日差しが強いのですぐ融けてしまいましたが、夜は冷えて、まだ春が来たという気になりません。しかし、ちょうど春分の日(20日)に北の学生寮の庭で迎春花が咲き始めました。昨年より2,3日早い開花です。もうすぐ桃、梅、杏が咲き、カメラを片手に忙しくなりそうです。

### 榆中の鳥たち

花はまだですが、朝早く鳥の声によく起こされます。スズメや尾長を除いて、よく聞くのは、シジュウカラ、ホトトギス、カッコウ、アオゲラ、アカゲラな



キャンパスの積雪（4日）



キャンパスの積雪（13日）

どです。シジュウカラは日本と同じように「ツピツピツピ」とさえずります。ホトトギスは「テッペンカケタカ」とユーモラスにさえずります。アオゲラは、高い木の上にとまって「ピー、ピー、ピッピッ」と辺りを睥睨するように鳴きますので、遠くからでもよく聞こえます。同じキツツキでもアカゲラの鳴き声はあまり聞き取れませんが、ドラミングの音がよく響きます。あんなに高速で木をたたき続け、頭に影響がないのか不思議です。残念なのは、ウグイスとメジロをまだ見たことがありません。ホトトギスやカッコーはよくウグイスの巣に托卵するそうですから、ウグイスがいても良さそうに思います。



ホトトギスとアオゲラ（鳥の写真が撮れず、借用）

### 進学か就職か

先日3年生の作文の授業で2017年をテーマに作文を書かせると、多くの学生が大学院進学の準備を始めたいと書いてきました。最近、中国では理系、文系にかかわらず、大学院への進学が盛んです。これまではクラスでトップの学生や大学で教師を目指す学生など4、5名が大学院を受験していましたが、この勢

いでは十数名が受験しそうです。大学院進学理由は就職に有利なためです。中国企業は経験やキャリア重視で学生には狭き門ですが、大学院の学歴を考慮してくれて、就活が学部学生より優位になります。また、大学院も研究コースと実務コースに分かれ、実務コースでは同時通訳などの技能訓練が行われているようです。



キャンパスの迎春花

3月20日に開花

蘭州大学では日本語の大学院が無く、日本語専攻の学生たちは他大学の大学院を目指します。大学の推薦枠が2, 3名あって、西安交通大や西安外大などそれなりの一流校へ行かれますが、これまで推薦を蹴って受験し、北京大学や北京外大など超一流校へ進んだ学生もありました。

大学院の学費はほぼ学部と同じか、それ以上になり、決して安くありません。トップ1, 2名に授与する奨学金はありますが、日本のように貸与奨学金はほとんどないようです。そのため大学院生の大半が親掛りになります。中国の親は教育熱心で、少しでも子供に高い学歴を持たせようと、親の方が学生たちを煽るようです。そのため、今まであまり勉強せず、成績がぱっとしない学生も大学院を希望してきます。

昔は村中からお金をかき集めて学費を作って学ぶ苦学生がどこの大学でも必ずいましたが、現代ではもはや伝説と化したようです。親の負担はたいへんでしょうが、一人っ子のせいで何とかやり繰りができるのでしょうか。中国の生活レベルももう日本とあまり変わりません。



鉢植えのベコニア



もうすぐ咲く杏

以上